第4号

丹波市 農業委員会だより

古代米で浮かび上がった 全長20m超の「丹波竜」出現!!

上久下東、農地・水・環境保全向上対策委員長の吉竹寛二氏(左)と化石の第一発見者の村上茂氏

恐竜稲アートに夢を描く子どもたち

実物大の恐竜の稲アート

国内最大級の草食恐竜「丹波竜」(上滝)の化石が発見された近くの圃場で見事な稲アートが完成しました。

五月に一般募集で子どもたちも含めて田植えを行い、四種類の古代米が実りました。

下滝の村上鷹夫さんの指導のもとアイガモ農法で育てられた古代米。

十一月三日の上久下地区文化祭で餅つきを行い、みなさんに振る舞われました。

★がんばってる人たち……2～5p
★農業委員・認定農業者の活躍について/農地関係の基礎用語集……5～6p
★農地相談日のお知らせ/募集しています。……7p
★遊休農地のパトロールについて……8p
★選挙人名簿の登載申請/農業者年金etc./農業委員担当集落一覧表……〈とじ込み〉

地域の取組みコーナー

◎地域の特色を活かし、農業振興に励むグループとがんばってる人たちをご紹介します。

柏原地域

生き生きした村づくりに貢献

柏原町母坪　徳田　義一

柏原町田路自治会は五つのグループで休耕農地を有効活用して、村づくり、仲間づくりに大きく貢献し、注目されています。

①ポパイ　②この実会
③ひまわり会　④耕作会
⑤花見月

いずれも五名から十名が一グループになり、水稲を中心に、ブドウ、さつまいも、胡麻、ソバ、黒大豆などを栽培している。農会も若い担い手役員で運営されており、農地・水・環境保全向上対策にも母坪自治会とともに活発に取り組んでいます。

公民館活動を通じて、夏まつり、子供会活動、秋の収穫祭や冬まつりなどを盛会に催され、グループ毎の収穫物を提供して、大勢の人に喜んでもらっています。特にソバ打ちの名人が作るソバは美味しいと評判がいいです。

自治会百二戸、農会六二戸の村づくりに欠かせなくなったグループについて、村上　優自治会長は「若い人から高齢者まで生き生きとした村にするために、みんなで助け合っている五つのグループの存在が大きい。今後も村の活性化の為に大いに期待している」と力強く語られました。

「花見月」による、さつまいもの栽培風景

氷上地域

二十年後の地域農業を思い浮かべて

氷上町賀茂　兼古　捨人

私は現在三・二ヘクタールの田んぼを耕作しています。内訳は水稲二・四ヘクタール、黒豆三十アール、小豆二十五アール、山の芋十五アール、野菜十アールです。

農作業のほとんどを家内がこなしていて、私自身は現金収入を得るために自営業を営んでいます。

しかし、機械による農作業は天気模様を見ながら、自営業の利点を生かして、私が行っています。

水稲は直播栽培を十五年位続けていて、作業受託も含めて、十ヘクタールの直播きをしています。最近では難関であった雑草と倒伏の問題もなんとかなりそうな感じです。

団塊世代の真ん中の私は、小学生の頃から家族労働による農作業を経験しているので農業に抵抗はありません。

今後は、会社を定年退職した人達が益々就農されると思います。

私が少し気がかりなのは、農作業が機械化されて家族労働そのものが見られなくなった世代の人達が、やがて農業をしはじめる頃、地域農業の伝承がスムーズにできるかと言う事です。

農業は見た目より細かいノウハウが沢山あります。四十代位から少しずつでいいから、農業に目を向けてください。

食育を言われる時代です。子育ての最中で仕事にも一番脂の乗る年代で忙しいとは思いますが、退職してから農業を覚えるのも大変ですよ。

お節介なおっさんの呟きです。

二人三脚の兼古捨人さん愛子さんご夫妻

新品種ねぎ「あじ奉行」の栽培

氷上町谷村　三崎　鉄一

私達生産者七名は、一昨年よりＪＡ丹波ひかみの指導を受け、太くて、白いねぎの新品種「あじ奉行」の栽培を始めました。

「あじ奉行」は全国農業協同組合連合会が開発した下仁田系の品種です。

風味が強く、歯ごたえがあり、葉も軟らかくて、甘みの強い太ねぎです。美味しく食べられる上に、血流を良くするのが特徴で、鍋物、ねぎ焼きにも最適です。

昨年は一・一ヘクタール作付けし、約三万本を十一月から二月頃にかけて、ＪＡを通じ「三ルート」とれたて市」やスーパーにも出荷しました。

今後は作付けを拡大し、丹波市の特産物になるよう、ＪＡの指導を受けながら栽培につとめて参ります。

三崎さんと新品種ねぎ「あじ奉行」

山南地域　新規就農して

山南町小野尻　三角　修一

九州の福岡市で二十五歳まで学生をして、大阪で就職、サラリーマンを五十八歳で切り上げました。親父を六十歳で亡くした私は、「親父の歳までは生きて子育ての責任を果たし、弟妹家族も呼べる田舎に母屋を持とう。私が三角家の長男だ」との想いを強くしました。

四十二歳になった時、子どもがなじむためにも早いに越したことはないと「三角家の集合場所」を、大阪箕面から遠くない、ここ「小野尻」に決めました。それから十五年、五十坪ほどの庭で週末はもとより休暇が取れれば、土に親しむ「二地域居住」を実践しました。

五十代になってからは家続きの畑（百五十坪）を貸して頂き耕作しました。作業の一服時の会話は「何時帰ってくるの？」になっていました。退職と同時に住民票を移し、改めて村入りのため総代に挨拶に伺いました。行事・慣習・自治会運営など、お付き合いの心得を、丁寧にお話頂きました。透明性の高い良い村だとの想いは六年目に入った今でも年々強くなり、住んでいることを誇りに思うようになりました。

今年から、別棟を『農家民宿』として開放、屋号を「小野尻庵」と称するまでになりました。

耕作地の借り受けでは、地区農業委員様に適切な指導助言（初めての田植えは結果的には植えてもらった）を頂き、無理なく耕作地を増やすことが出来ました。農業振興地域、三条申請、構造改善…右も左もわからない者を、水田一ヘクタール、畑五十アールを耕作する者にまで育てて頂きました。旧山南町、丹波市、県民局の企画、農政の方々の指導助言も有り難かったです。農業経営面ではＪＡ丹波ひかみ山南支店にお世話になっています。

三角修一さん三紀子さんご夫妻（左）と農業体験投宿青年たち。小野尻庵の前で

農家民宿の運営は、今は都市生活をされている人との交流の場、癒しの空間としたく思っています。そして、私を支えてくれている人にも農業の喜びを伝えていくのが私にできる恩返しと思っています。

この丹波市の自然環境の下で、里山散策、農業体験などで一緒に汗する笑顔を見ていると「命の洗濯」のお手伝いが出来ていることを実感します。

親父の歳を越えました。典型的な中山間地の小野尻を里（郷）にした『三世代二地域居住環境』は見えてきましたが、課題は残っています。『子どもが子育てを終えて戻ってくるか』『生を長らえ子を迎えうるか』二つとも中山間地の課題でもあります。

後者は天命を待つとして、これからは「戻れる環境づくり」の原点「子、孫との絆づくり」に残された時間を注ぎたく思っています。

「五年が経ち夢が叶いつつある」ことを記し、支えて頂いている多くの方々への謝意といたします。

青垣地域

森林動物研究センターに期待

青垣町東芦田　芦田　淺己

この四月、青垣町沢野に「兵庫県森林動物研究センター」が開設されました。

現在、シカやツキノワグマをはじめ、野生動物による人との軋轢（あつれき）や自然生態系のかく乱などが全国的な問題となっています。農林業への獣害対策への取り組みとしても、農業委員会では毎年「建議」をしてきたところです。そこでこのセンターの業務内容を知るために取材をさせていただきました。そのすべてを紹介するには紙数が足りませんが、「野生動物の保全と管理（ワイルドライフ・マネジメント）」として、次のようなことに取り組まれています。

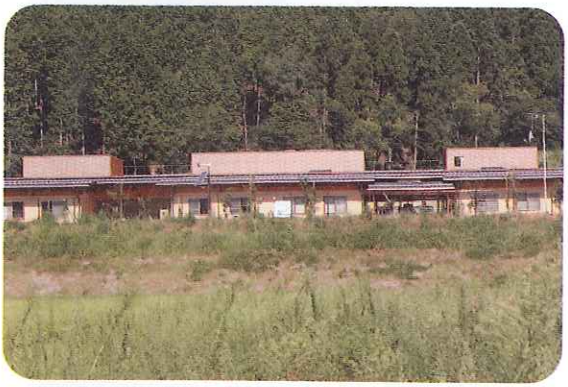
【目標】

①野生動物による農林業被害の防除や人身被害の防止
②自然の恵みに裏づけされた中山間地域の振興
③野生動物と共存する地域文化の創出
④自然環境資源の持続的な利用
⑤生物多様性を保全する共生の森づくりなど自然環境の回復

【機能】

①野生動物に関する調査・研究
②環境政策・地域政策としての調査・研究
③森林動物専門員・森林動物指導員による現場対応支援
④行政施策支援
⑤人材育成
⑥情報発信・普及啓発・ミュージアム機能
⑦ＮＰＯ等活動拠点づくり

とりわけ、各種調査・研究テーマのなかでも「鳥獣被害に強い集落づくりをめざしたモデル対策」については、農業者としても大いに共鳴できる取り組みでありました。旧青垣町時代に取り組みかけたヤマビル対策についても、この地域の課題として研究されるよう要望いたしました。



兵庫県森林動物研究センター

市島地域

新たな農業の姿を求めて

市島町北奥　荻野　拓司

丹波の食材で都市との交流
（丹波いちじまふぁーむ）

当時、ＪＡの県中央会に勤めていた私は、丹波に帰り農業に取り組むことを理由に四十歳で退職しましたが、早十年以上の歳月が過ぎました。当時は周囲の人に「えっ！　農業を！」と大変驚かれたものです。

退職するときに考えたことは、独自の「農業像」をめざしたことでした。それは、農業を生産面だけでなく、加工や食すること、マーケティング、インターネットなどの観点からの複合的な「農」活動をめざすものでした。今、全国でも進んだ取り組みには六次農業化が図られています。

農園を「丹波いちじまふぁーむ」の名で農事組合法人として登記し、いろいろな立場の方との交流の場、誰でも集まれる場にと自らの手で赤レンガの建物を造りました。

主な農業生産物は、稲作、果樹ですが、交流活動では、これまで小学校と「鴨庄っ子の森」という里山活動に関わったり、県教委の依頼で県立高校の先生を社会研修で受け入れたり、「食」を通じた都市との交流などを行ってきました。こうした中で、丹波ファンも増え、実際、大阪から丹波に移住された方もありました。

ただ、これまでの県中央会、また、農会長や農業委員のときから厳しい農政の現実は十分肌で感じています。私の農業面での活動自体は、まだ個人の域を出ない模索の段階ですが、理想であっても気持ちは少しでも前向きに、これからの農業、そしてその広がりを考えていければと思います。

春日地域

楽しく食農教育　未来っ子に夢を託して

春日町国領　近藤　昇

五月十六日、進修小学校（三崎典子校長）五年生の生徒十四名と共に校門前の水田で田植え体験を行いました。

一・五㌃の遊休農地を借り上げた実習田を始めて四年目。総合的学習の一

環として米作りに取り組んでいます。
七人ずつの二班に分かれて、ロープに付けたリボンを目印に縦二十㌢、横三十㌢の株間を取ってコシヒカリの苗を手作業で植え付けます。
ご協力をいただいている足立義一氏と、土作りから、お米になるまでを役割分担し、その行程の中で、子どもたちが出来る農作業を一緒に行います。
水田に入るのが始めての子もあり、「カエルと遊べて楽しかった。昔の人はこうして田植えをしたんや。田んぼが広かったら大変やな。苦労が分かるわ」等々大はしゃぎである。
「今日の体験を大人になっても忘れないで欲しい。一本一本丁寧に田植えをして、苗が大きく育ってお米になる。お米の大切さを忘れないで欲しい」と話す。

田植えが無事に終わってピース!!

そして、去る九月十一日には、稲刈りの説明の後、子どもたちは競うようにのこぎり鎌で稲刈りをはじめました。
「自分達が植えた苗が大きく伸びて黄金色の稲穂に実って嬉しい」と喜びあいながら、「寝たり落ちたりしている稲穂を踏まないようにするのが大変だった。株を丁寧に持って刈った」と満足した笑顔に汗が光っていました。
それを束にし、足立さんが組んでくれた稲木にかけて一週間程天日干しをしてから脱穀という昔ながらの方法を取り入れました。
五年生担任の山口剛史教諭は「収穫後にはお米で出来る日本や世界の料理を調べたり実際に作ってみて、体験で学んだ事を後輩にも伝えて学習を深めたい」と話されていました。
米作りを通してたくましく成長してくれる姿が何よりの楽しみです。飽食時代を生きる未来っ子に米作りを通して汗をかくことの大切さ、友達と協力し合うことの大切さ、手作りの大切さ面白さを伝えていきたい。
子どもたちから、「色んな仕事をしてやっと食べれるお米になることを知ったから、一粒でも残したら今までの苦労が台無しになってしまう、勿体ない」「給食や家のごはんも残さないで食べたいと思うようになった」「米作りを通して色んな事を学びました」「米を笑顔にさせる美味しいお米が採れて嬉しかったです。皆で協力して米作りが出来たことが一番心に残っています」等々の嬉しいお手紙をいただき、この子達が、農作業の記憶を留めて、大人になってからも思い出し、将来の丹波市農業の担い手として育ってくれる事を夢見ながら来年の米作りに思いを馳せています。

無事故で収穫が終了し、稲木の前で集合!!

農業委員の活躍
遊休農地解消に向けて
農業委員が大納言小豆栽培

青垣町沢野　田村　堯明

これまで、農地を最低限保全管理するために、耕耘と畦畔の草刈り等の取り組みはされてきました。
しかし、もっと遊休農地を有効に活用できないかと検討した結果、青垣地域の農業委員全員で、特産振興の対策を実践的にやってみようと、十五㌃の遊休農地を利用して大納言小豆栽培に取り組みました。
準備する時間が十分なかったため、従来の『青垣方式(農業委員会だより創刊号に掲載)』とはいかずに、七月半ばに耕耘、畝たて、七月二十五日に管理機による播種、根きり防除、除草処理のみという栽培方法で行いました。
天候に恵まれ、大変よく発芽しましたが、八月半ばにシカによる食害を受け、半減する事態となりました。あわてて、シカ網を設置しましたが、後の祭で、いかに獣害対策を早目に行うことが大切かを学びました。
周囲が水稲で、稲刈り後はこの圃場の小豆のみという状況なので、今後収穫までどのような対応策ができるか研究中です。

遊休農地解消に向けて特産振興に励む
青垣地域の農業委員

認定農業者の活躍

集落営農に賭ける！

「丹波おがわ郷（むら）」副組合長
山南町奥　笹倉　範久

山南町村森、井原、奥、岩屋の四集落営農組織が統合して、昨年十一月に「丹波おがわ郷」を設立しました。

農地面積は約九十ヘクタール、構成員は百三十四名です。

組合長の大垣義和氏と共に、集落の農会、営農組織が各行政機関等の助言を受け、十ヶ月をかけて広域化の話し合いを進め、最終的に集落別の説明会で合意され設立に至りました。

経理は後藤幸信氏の担当です。

（株）丹波野菜工房も含めて運営の中心は私達、認定農業者が担っています。（株）丹波野菜工房の若手スタッフは重要なオペレーター戦力になっています。

そして、各集落の作業部会はそのまま残して作業を分担しました。機械の融通や応援に加え、お互いに教え合うことで技術が一気に向上し、喜んでいます。

小川地内の対象農地を三年のブロックローテーションで集団転作を計画し、小麦栽培組合が農作業の全面受託から販売までの窓口を一元化し、二年三作（水稲―小麦―小豆）の作業体制を確立しました。

品目横断的経営安定対策の面積要件（二十ヘクタール以上）を満たすために組織化に取り組みました。元来地域内は集団転作の先進地で、各集落で取り組んでいた利点を生かし、今後は運転資金や、組織運営についても研究を重ねて行きます。

現在の受託面積は麦作約二十四ヘクタールです。今後は水稲と特産の大納言小豆も引き受け、十年後には四集落の農地の半分を同組合で管理することを目標に頑張って参ります。

集落営農の発展を夢見ながら精出す笹倉さん

農地関係の基礎用語集

※ **農業振興地域とは**…総合的に農業の振興を図ることが相当な地域として、都道府県知事が市町村と協議して指定した地域
農振地域に指定された農地は、ほ場整備やビニールハウスなど農業近代化施設の整備などを行い、優良農地の確保と有効利用を目指します。
このため、当該地域内においては原則として農地転用を禁止し、農地の保全を行っています。
特に、ほ場整備地は、多く公共事業費が投資されているため、保全すべき優良農地と位置づけられています。

※ **第三条許可申請とは**…農地又は採草牧草地（以下農地等という）を、貸借権、その他の使用収益権を設定し、又は贈与、売買等により所有権を移転する場合に行う申請手続きです。

※ **第四条許可申請とは**…権利の移動を伴わないで（所有者は変わらないで）、農地等を農地等以外に転用するために行う申請手続きです。

※ **第五条許可申請とは**…権利を設定、あるいは権利の移転を行い、農地等を農地等以外の目的に供するために転用する場合に行う申請手続きです。

※ **認定農業者とは**…農業経営のスペシャリストとして頑張っていこうとする農業者が立てた農業経営改善計画を、市町村が認定した農業者のこと。意欲のある方なら、性別、専業・兼業の別等を問わず、どなたでも認定の対象になります。
認定農業者になると、その計画達成に向けて、資金の借入や農地のあっせんなどの様々な支援措置を受けることができます。

※ **遊休農地とは**…農業経営基盤強化促進法第五条第二項第四号において、農地であって、現に耕作の目的に供されておらず、かつ、引き続き耕作の目的に供されないと見込まれる農地のこと。耕作放棄地とほぼ同様の意味です。

※ **新規就農者とは**…新しく農業への就業をする人のことです。新規就農に興味のある方や質問のある方は
- 丹波市役所春日庁舎農林振興課（TEL 74-1465）または
- NPO法人　いちじま丹波太郎（TEL 80-3750）

にお問い合わせください。

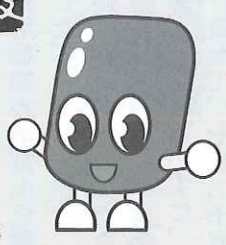
「丹波のあずきー」

丹波大納言小豆のマスコットキャラクター

丹波大納言小豆のマスコットキャラクターが「丹波のあずきー」に決まりました（絵）。

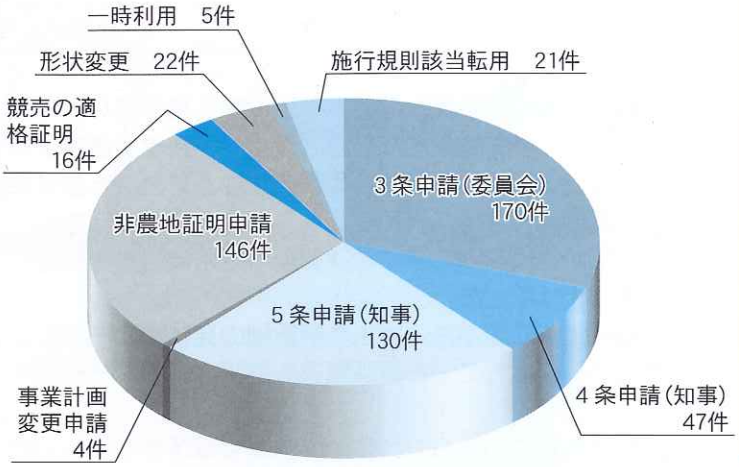
「丹波大納言小豆消費拡大推進会議」が公募していたもので、全国から三百二十一点の応募があり、最優秀賞は、福岡市の栗山照州さんのデザインした、俵型の小豆に大きな目が描かれ愛らしい姿をしたキャラクターが採用されました。

審査委員長を務めた丹波市出身のグラフィックデザイナー荻野丹雪さんが考案した口ゴマークとともに、のぼりやシールなどに使われ、大納言小豆の消費拡大に向けPRされます。



平成18年度 許可申請実績

申請案件	合計 件数	合計 面積(㎡)
3条申請(委員会)	170	244,739
4条申請(知　事)	47	29,206
5条申請(知　事)	130	108,187
事業計画変更申請	4	23,678
非農地証明申請	146	58,782
競売の適格証明	16	24,541
形状変更	22	22,166
一時利用	5	4,761
施行規則該当転用	21	2,695
計	561	518,755



農地相談日のお知らせ

農業委員会では、農地の貸し借り・売買・転用・有効利用などについての相談を受付けますので、お気軽にご利用ください。

【これからの農地相談日】

地域	H20/1月	会場
柏原地域	16(水)	生涯学習の森
氷上地域	16(水)	氷上公民館
青垣地域	16(水)	青垣住民センター
春日地域	15(火)	春日庁舎
山南地域	15(火)	山南支所
市島地域	15(火)	住民センター

相談時間：青垣地域は午後3:00から4:30まで、
その他の地域は午後2:00から3:30まで。

会　　場：相談会場は当日、案内板等でご確認下さい。

編集後記

稲刈りが終わりました。米価が低迷しており、これでは今後のコメづくりはできないという販米農家の声が聞かれます。なにしろ生産コスト割れそのものだからです。米価の価格補償・農業所得の補償を求める声もあります。

折しも、あいつぐ農水閣僚の不祥事も手伝って先行き不安な農政状況が続いています。けれども、このたよりの中でお示ししたように、ひたむきな農業への取り組みが展開もされているわけです。この人たちこそ農業の担い手そのものです。

お互い、これらの取り組みへの激励となるような実践の交流の場としたいと思います。

募集しています

農業委員会では、農業委員会だよりに対するご希望を募集しています。農業に関するエッセイや川柳、写真など、ぜひ農業委員会事務局までお寄せください。

～ 募集要項 ～

- **応募資格**　丹波市在住・在職市民・児童生徒を含む。
- **応募期間**　随時。
- **応募方法**　下の応募様式を下記宛先に送付するか、または届けてください。
- **その他**
  - 作品は未発表のものに限ります。
  - 応募作品は返却いたしません。
  - 応募作品は編集委員により選定し、年2回発行の農業委員会だより等に掲載し、丹波市の農業振興の啓発活動に使用いたします。
- **提出先**　丹波市農業委員会事務局
  〒669-4192　丹波市春日町黒井811

応募様式

住所	(〒　　－　　)
ふりがな	
氏名	
連絡先電話番号	
作品 (写真は裏面にご芳名等をご記入の上、ご提出ください。)	

※本応募用紙に記載された個人情報は、上記募集に関すること以外の取扱はいたしません。

平成19年11月20日　編集・発行／丹波市農業委員会　〒669-4192 兵庫県丹波市春日町黒井811番地　TEL.0795-74-1504　FAX.0795-74-1055

農地パトロールを行いました。

遊休農地のない農村づくりをめざしましょう!!

農業者の高齢化や担い手不足、野生鳥獣害などにより、耕作放棄地が問題になっています。農業委員会では遊休農地及び無断転用を防止するために、農業委員全員による農地パトロールを８月に実施しました。

通知や戸別訪問により原状回復や転用申請等を指導し、成果を上げました。

遊休化した農地は、害虫や病原菌の発生源にもなり、真剣に耕作されている近隣農家や集落に多大なる迷惑を及ぼします。

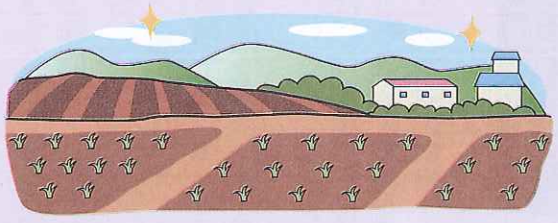
耕作されている方は、農地の的確な管理をお願いいたします。

遊休農地が発生すると　環境の悪化につながります

遊休農地の発生防止・解消を図るには

「農地は荒らさず耕作するもの」との基本原則を守りましょう！

●「農地は荒らさず耕作する」ことが原則です。自ら耕作できない場合は、担い手への利用集積を図りましょう。
●農地の管理・活用についての相談は、地元の農業委員や農業委員会事務局に問い合わせましょう。



遊休農地の解消対策に積極的に参加しましょう！

●市町村で行われている「一斉耕起の日」や「遊休農地ボランティア」など、地域ぐるみの取り組みに積極的に参加しましょう。
●地域の会合で、遊休農地の利活用についてアイデアを出し合いましょう。

PRINTED WITH SOY INK　R100 古紙配合率100%再生紙を使用しています

農業委員担当集落一覧表

H19. 6. 29～H20. 6. 30

地域	委員氏名	住所	電話番号	担当集落名
柏原地域	古倉　一郎	小南4	72-0191	小南・室谷・本町・下町沖田・上中町・石田・北中
	上山　貞	南多田870	72-0487	南多田・南多田沖田・下町・東奥
	徳田　義一	母坪115	72-0284	挙田・大新屋・石戸・鴨野・東鴨野・北山・田路・母坪
	常岡賢太郎	上小倉520	72-2468	上小倉・下小倉・見長・屋敷・新町・古市場
氷上地域	稲継傳右衛門	中野197	82-0262	清住・中・三方・ 中野・三原
	三崎　鉄一	谷村33	82-1493	稲畑・新郷・谷村
	金子　康彦	常楽1009	82-0855	上成松・常楽・成松
	足立　豊	柿柴116	82-0231	下新庄・上新庄・大谷・長野・柿柴・柿柴東
	伊藤　武男	氷上262	82-0819	絹山・氷上・南油良・北油良・桟敷
	梅澤　忠司	石生182-1	82-6354	地頭・石生新町・領町・南町・北野・大崎・横田・市辺・本郷・稲継
	○会長職務代理者 山本　育男	西中489-3	82-1990	黒田・犬岡・西中
	足立　正敏	賀茂733	82-2007	北御油・南御油・井中・北田井・南田井・西田井・田中
	前田　義弘	福田154-2	82-0128	上油利・下油利・朝阪・小野・福田・佐野
	田邉　重喜	伊佐口565	82-7221	香良・伊佐口・日比宇・鴨内・小谷・沼
青垣地域	芦田　淺己	東芦田1477-1	87-0207	東芦田・田井縄・栗住野
	足立　利雄	山垣942-2	88-0333	中佐治・山垣・遠阪
	田村　堯明	沢野257-3	87-0767	佐治・小倉・森・市原・岩本・寺内・小和田・沢野
	足立　梅則	惣持104	87-5730	桧倉・大稗・小稗・惣持・文室・大名草・稲土
	足立　邦雄	奥塩久105	87-1328	西芦田・口塩久・奥塩久・矢ノ内
春日地域	中道　司康	七日市348	74-2262	多田・七日市・野上野
	近藤　昇	国領758-3	75-1206	東中・国領
	細見　肇	栢野249	75-0097	中山・松森・広瀬・栢野・野瀬
	新才　良男	新才275	74-1391	天王・長見・新才・牛河内・山田
	小山　一夫	黒井1972	74-0852	横町・芝町・小山・下野村・木寺・惣山・奥野村・西野々
	小野　善弘	稲塚624	74-0395	上ヶ町・本町・新町・仲町・西町・杉ノ下・局の里・平松・稲塚・大野・古河
	荻野　千年	棚原1559-1	75-0209	柚津・棚原
	細見　貞夫	上三井庄260-1	75-1481	上三井庄・下三井庄・鹿場
	舟川　芳明	多利978	74-1064	多利・小多利・池尾
	岸部　優男	朝日858	74-1841	朝日・園部・石才・歌道谷・坂・野山
山南地域	○会長 西田　幸男	阿草624-2	78-0624	青田・阿草・上滝・下滝・篠場・北太田・太田・畑内
	笹倉　範久	奥186	77-1780	村森・井原・奥・岩屋・野坂・南中
	石塚　和三	梶513-2	76-0667	梶・前川・小新屋・和田・金倉
	白髭　満	小野尻982	76-1269	若林・富田・小野尻・小畑・西谷・山本・五ヶ野・坂尻
	板野　貢昊	和田1038-4	76-0124	北和田・草部・応地
	足立　繁	谷川1601	77-0097	谷川・山崎
	西垣　昌代	大河169-2	77-0287	大河・池谷・長野・岡本
	藤原　健	大河150-1	77-0089	金屋・奥野々・玉巻・大谷
市島地域	中澤　直温	矢代266	85-0509	十市・八日市・矢代・今中・宮ノ下・段宿・下鴨阪・谷上
	吉見　洋	上垣214-2	85-2107	梶原・上田・上垣・上市・久良部・北岡本・市島
	西畑　勝	東勅使207	85-2030	東勅使・勅使・酒梨・鴨阪・尾端
	長澤　秀司	北奥61	85-1509	端・牧南・牧北・北奥・戸平
	前川　昌藏	中竹田1169-1	86-0147	友政・安下・大森・岩倉・新道貝・市ノ貝・水西・高坂
	渕上　忠男	与戸374	85-1929	戸坂・白毫寺・与戸・乙河内
	髙雄　武一	下竹田3051-3	86-0085	才田・中村・樽井・石原・森・表・寺内
	尾松　善男	南905	85-1464	南・岩戸・喜多・徳尾・大杉

農業委員会委員選挙人名簿の登載申請について

来年は農業委員の改選の年です!!

まもなく皆様のお手元に農会長を通じて「丹波市農業委員会委員選挙人名簿登載申請書」が届けられます。これは、農業委員を選挙で選出するために毎年作成するよう法律で定められた書類です。

この申請書に基づいて作られる農業委員会委員選挙人名簿にのっていないと立候補、投票及びリコールの請求が出来ません。

選挙権及び被選挙権を有する者の条件は、

① 丹波市内に住所を有すること。

② 年令が満20歳以上であること。

③ 田・畑併せて10アール（１反２歩）以上耕作している者及びその同居の親族又は配偶者で年間おおむね60日以上耕作に従事していること、となっています。

申請書の記入事項はすべて平成20年１月１日現在で状況を記入して、平成20年１月５日までに農会長にご提出ください。

くわしいことは農業委員会事務局　TEL74－1504へお問い合わせください。

国民年金に加入している農業者のみなさまへ

農業者のための

公的な積立年金

国が支える。安心が大きくなる

担い手 積立年金 [愛称]

農業者年金

しっかり積み立て! 安心で豊かな老後を! 家族みんなが二コニコ笑顔!

①国民年金の第1号被保険者で
②年間60日以上農業に従事する
③60歳未満の方なら

どなたでも加入できます

確定拠出型の年金です。

過去5年間の運用実績は 年3.45%です

（平均利回り・平成14～18年度）

単年度利回り…平14（△4.65%）、平15（5.99%）、平16（3.40%）平17（9.80%）、平18（3.27%）

終身年金で80歳までの保証つきです。

公的年金ならではの税制上の優遇措置があります。

認定農業者など担い手を対象に保険料の国庫補助があります。

夫婦2人の老後、国民年金だけで十分ですか?

世帯主が65歳以上の夫婦2人で OUT 出る 月26.4万円　国民年金の支給額は夫婦2人で 月13.2万円 IN 入る

夫婦2人の国民年金の合計は月額13万2千円（40年加入）。一方、夫婦2人の老後の生活費は、年金収入の2倍にあたる月額26万4千円（平成15年・農林水産省調べ）。国民年金だけでは、老後の生活費として十分とは言えません。

全国農業新聞

NATIONAL AGRICULTURAL NEWS

全国農業新聞は、市町村農業委員会、都道府県農業会議、全国農業会議所の農業委員会系統組織が総力をあげて、普及、編集・発行に取り組んでいる唯一の組織情報紙です。

農政・経済の動向、全国の優良営農事例等が多く掲載され、農業関係者の喜びや悩みを共感できる読みやすい新聞です。

お申込は農業委員会事務局へお問い合わせください。